

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453		
法人名	タ風会		
事業所名	グループホーム タなぎの家		
所在地	岡山県岡山市東区宿毛745-3		
自己評価作成日	R5.2.10	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5年 3月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人タ風会の広い敷地内に、特別養護老人ホーム、デイケア、ヘルパーステーション、ケアハウス、デイサービス、老人保健施設、道を隔てて宿毛診療所があり総合的なケアが受けられる。ケアハウス棟の4階に有ることで眺めも良く、小高い丘には桃畑や桜並木、眼下に広がる田園風景と見ていて飽きない。居室の南には屋上庭園になっており畑やプランターで季節の野菜や花を育てている。開放的な明るいホーム内で一人ひとりの思いに寄り添いながら、のんびりゆったり一緒に楽しくをモットーに支援させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員一人一人がベテランであり、常日頃からそれぞれが入居者の意向を模索し、その思いに添うように「のんびり」「楽しく」「笑顔で過ごす」にはどうすればいいかを考え、日々のケアに取り組んでいます。入居者の「思い」を大事にしている様子が窺えました。周りに他の背の高い建物もないので入居者もその展望に満足している様子でした。あわせて広い屋上庭園やそれに続くベランダもあり避難経路の確保やプランターでの花や野菜作りにも利用しています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
						4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
							4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
						4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夕風会の理念に沿い、職員同士で情報を共有し実践につなげている。1回でも多く笑顔を引き出せる様努めている。	方針やどうすべきか迷った時は理念を元にどうすれば入居者が笑顔になってくれるかを基準に考えています。	理念にそったケアを今一度再確認し、個々の得意な事を出し合ってチームとしてより昇華していくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1年に1回の夏祭りがあったが、コロナ禍で今は中止となっている。実習生の訪問、歯医者、精神科医主治医の訪問等。	コロナ禍以前は地域住民との交流があったが現在は実施できていません。実習生が来ると入居者の皆様は喜ばれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岡山市東区地域包括支援センター、地域連携室と連絡を取り地域の情報を収集している。また、居宅とも連携を取り地域の方々の入所も多く地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い行事や取組等の報告を行っている。地域の方、市の担当者から助言を頂き、職員会議で話し合いケアに活かせるよう努力している。	コロナ禍の影響で家族の来訪はなかなか難しいようです。他、包括支援センターの職員や地域の方とは集まり会議を行なっています。	消防署員や警察官、その他多様な職種も含めこの地域の社会資源を活用した運営推進会議を検討してみよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は市の担当者に連絡し協力を得ている。地域包括支援センターに相談し地域の情報を得ている。	日頃より市町村と連絡をとり、その他にも運営推進会議により定期的に情報交換をおこなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の事故防止委員会、隔月開催の身体拘束委員会に出席し職員に周知徹底を行っている。しかしながら玄関においてはシステム上電子施錠となっている。	定期的な研修により身体拘束について理解を深めています。拘束せざるを得ない状況を作ってしまう前に入居者の精神安定に努めているか、不安を取り除けているかなど考え、予防にも努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長より、権利擁護やコンプライアンスルールについての講義がある。またメディアで取り上げられた事案等、職員間で話し合う機会がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用する入居者がおらず学ぶ機会を逸している。外部研修及び内部研修を行い理解に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけ理解納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお手紙、電話で状況をお伝えし、意見要望などお聞きしている。有れば真摯に対応している。外部評価の家族アンケートを活かしている。	入居者や家族から意見や要望があった際には職員間で話し合いをし、出来る限り意に添えるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で日々意見交換出来る雰囲気を作っている。また職員会議で意見を出し合い実践に繋げている。	就業についての色々な悩みや相談を管理者や施設長に話しやすいような環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生、キャリアパス制度が充実しており、代表者、上司は向上心を持って働けるよう配慮頂けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を初め、資格習得の為の講習や報奨金など、職員を育てる為のシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流は現在はないが、外部研修を通じ情報交換はある。待機者、入退去時等、情報交換がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と意見交換を行い趣味、性格等の情報収集を行い、今までの生活と大きく変化すること無く過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族の要望、不安等を傾聴し真摯に対応する事で信頼を得られるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様にとって今一番必要な支援は何かを見極め他職種と情報交換を行いながらサービスが提供されるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間の中で、同じ時間を共に生活しており、協力し助け合いながら関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、家族の思いをくみ取りながら行事参加、外出等の色々な形でケアに活かされるよう努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	診療所で馴染みの人と合い話をする。昔の友人、親類から絵手紙が来たり、電話がかかって来ることもある。	ホーム自体が馴染みの場として定着しているようです。また馴染みの人から連絡がきたらきちんと取り次ぎ、今までの関係性を大事にして頂けるよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備、洗濯たたみ、菜園活動、またレクリエーションを通じ、孤立しないよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の関係機関に落ち着くまで連絡は取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人、お一人、また家族の希望に寄り添いカンファレンスや職員会議で話し合い支援に繋げている。	入居者と普段接する中で会話の内容や挙動からその人が大事にしている事を模索し、思いや意向の把握に努めている様子が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の生活歴や生活環境を把握しこれまでの経過に即したものとなるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人、一人に合った暮らし方が出来るようカンファレンスを行い適切な支援が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族にとって今一番必要な支援は何か見極め、家族、主治医、多職種の意見に基づき介護計画を作成している。	他職種による多方面からの意見を取り入れながらできるだけ本人の意向に添った介護計画を作成する様心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わずかな気づきも職員間で共有し、介護計画に活かし、改善点があれば見直していくよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対し、多職種の助言などにより、柔軟、かつ丁寧な対応が出来るよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や外出などに地域資源を活用し、気分転換を図るなど豊かな暮らし作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、主治医、事業所の良い関係作りが出来ている。これからも連絡を密に取り適切な医療が受けれるよう努力する。	専門医の定期的な受診もあり、入居者の病状の変化があった際にはその都度家族への報告も行なっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による感染予防の指導や助言、急変時の対応など協力体制ができており、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して治療できるように協力病院と連携をとり、情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や職員、主治医、栄養士間で話し合いを重ね、看取りに近いところまでの支援に努めている。	看取りは行なっていないので、入居する前に本人や家族にどのような状態や段階まで入居するか方針を話し合うようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急研修を受けたり、主治医の助言や指導を常に心にとめて、危機管理意識の徹底を図るよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。また3月11日は災害避難訓練を行っている。常に災害を意識している。	年二回日勤帯、夜間帯それぞれを想定した火災想定、地震想定、水害想定それぞれを行っており、別で地震想定、水害想定、水害想定ではホームが避難場所になり、備蓄の確保もしています。	実際に夜に行なうのは難しいと思うが薄暗くなってから避難経路の確認等でもしておくとなかなか新たな課題が発見できるかもしれません。より実際に近い状況で避難を考えてみることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時のノック、話の内容を大きな声でしないで、戸やトイレのカーテンなどきちんと閉める等、配慮している。	夜間の見回り時など入居者が驚かないように配慮しており、入居者が気になってしまう場合にはフォローするようにしています。声かけはある程度の親しみやすさは大事にしつつも失礼にならないように声かけに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により自己決定が難しい入居者もおられるが、声掛けやスキンシップ、表現から読み取ったり、寄り添い傾聴するなど自己決定が出来るような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の早い方、ゆっくりの方、ホールで皆と一人一人のペースに合った支援に努めている。話すのが好きな方、居室を好む方一人一人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の理美容、爪切り、化粧品、服選びなどもその人らしさが出るよう支援をさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入れ歯の調整や誤嚥体操を行い盛り付け、配膳下膳を職員と一緒にするなど、食事が楽しみになるような支援を行っている。	食事前にはバタカラ体操等行ない、準備してから食事にのぞむようにしています。おやつ作りが好きな入居者がおり、一緒に作業する事が自己表出と楽しい食の支援に繋がっている様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態など考慮し主治医や栄養士、他職種の助言を取り入れながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の受診を受け指導、助言を頂きながら口腔内の衛生に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のペースで排泄を行っているが尿意、便意が難しい入居者には時間を決めて排泄を行っている。おしめ着用は夜間のみ1名おられる。	リハビリパンツの使用が適していると考えた場合には、本人や家族に相談してから使用しています。本人の尊厳を考慮しながら出来るだけ自立へ向けたケアを模索しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、繊維質の食品など、栄養士と相談しながら摂取して頂いている。また運動、下剤の服用など主治医に相談しながら早目の対応が取れる様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否される入居者もおられるが、散歩の後に行う等工夫し、入浴が楽しめる様に配慮している。	入浴拒否される入居者がいるが、出来るだけ気分よく入浴して頂けるように、お誘いを含めた様々な対応で入浴介助を模索し支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自然に就寝準備、就寝へと繋げる様に支援したり、眠前薬の使用などで安眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適宜、薬の見直しを主治医や家族と共にやっている。本人様から薬の説明を求められた場合には説明を行っている。毎回おたよりに薬の内容を同封している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動、外出、季節の行事などを行い、喜びが感じられるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は出来ていた事も今はできなくなっていたが、コロナが落ち着いてきている為、個人の行きたい所に出かけていく支援を行いたい。	最近ようやくコスモス畑や紅葉狩りに行く事ができた様で、コロナ禍が落ち着いたらもっと色々な外出支援を検討しています。車は法人所有の車を使用することができる様です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいない。買い物など希望があれば家族に了解を得て職員と買い物に行っているが、現在コロナ禍で来ていない。ほしい物があれば職員が買って来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様から要望があれば電話を掛けたり、繋ぐことも自由に出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	棟の最上階に有ることから、コーヒーを飲みながら広々としたベランダの野菜や花をいつでも見ることが出来る。共有スペースには個人の作品が飾られ楽しみにされている。	日中過ごす共有スペースは入居者それぞれのお気に入りの場所があり、できるだけそれぞれの意向に添うように席等の環境整備をして心地よく過ごせる様に工夫しています。立地を活かした棟の4階からの景観の良さも魅力的です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々で好みの席もあり、入居者様同士で談笑されたり活動している。心地よい空間を作れるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた馴染みのある家具、テレビ、お位牌などを置き、本人様が居心地よく過ごせるように支援している。	本人や家族から居室作りに要望があった場合には出来るだけ意に添うように努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり、案内の貼紙の工夫など、安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。		